

化学科

学科のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

<求める入学者像>

1. (学力の基盤)化学を中心に高等学校レベルの自然科学を修めており、学士課程の化学を自律的に学ぶための用意が十分にできている。
2. (論理的思考力)物事を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現することができる。
3. (科学に生きる意志)社会、文化、地球環境保全のために化学とその技術を役立てたいと志している。

学科のディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<学科の教育理念と教育目的>

化学は原子・分子レベルにおける物質の性質と変化に関する科学です。無機化学、有機化学、生物化学、量子化学、物理化学、分析化学などの分野から成り、物性物理学、地球科学、生物学、薬学ともオーバーラップする幅広い領域を抱えています。したがって学生が期待する学習内容も、社会が卒業生に求める能力もきわめて多様です。この多様な要請に応えるために、化学科では化学主コースのほかに物性科学コースと生物化学コースの合計3つのカリキュラムを用意し、かつ、それぞれに科目選択の自由度を最大限に確保しています。卒業研究では世界の最先端の化学研究の一端を担い、科学的考察力や課題を解決するための総合力を培います。化学科では理学部全体の教育目標のもとで、次のような人材を育成することを目指しています。

1. 周辺分野も含めて化学全般に幅広い関心をもち、生活、社会、環境における諸課題を化学の視点から捉えることができる。
2. 実践体験型授業(実験、演習、発表、討論、卒業研究など)を通して実践的な課題処理能力を獲得し、自律的かつ発展的に課題に取り組むことができる。

<学習の到達目標>

1. (科学的知性)化学を中心とした科学の基礎知識と技能を修得して自己の中に体系化でき、それを基盤にして自律的に知的能力を発展させることができる。
2. (科学的解決力)科学的原理に遡って対象の本質を分析し、討論と実証的な調査・研究を通じて課題を解決に導くことができる。
3. (科学する者の自覚)社会、文化、地球環境の観点から科学・科学技術の役割と責任を論じることができる。